

第 27 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録

1. 日時 平成22年12月14日（火）10:00～11:20

2. 場所 （社）日本電気協会 4階 B,C会議室

3. 出席者(敬称略,順不同)

出席委員：宮野議長（日本原子力学会 標準委員会 委員長），森下（日本機械学会 発電用設備規格委員会 委員長），関村（日本電気協会 原子力規格委員会 委員長），宮口（日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長），波木井（日本機械学会 発電用設備規格委員会 幹事），岡本（日本原子力学会 標準委員会 幹事），越塚（日本電気協会 原子力規格委員会 幹事），小山（日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長）

常時参加者：大島（原子力安全・保安院），佐々木（内閣府・角田代理），釘宮（原子力安全基盤機構），渡辺（電事連・富岡代理），伊藤（日本原子力技術協会），瀧口（日本建築学会）

オブザーバ：愛川（日本溶接協会），安部（原子力安全基盤機構），小山田（内閣府・原安委），河井（日本原子力技術協会），船橋（火力原子力発電技術協会），永田（日本電機工業会），横田（日本原子力産業協会），渡邊（日本電機工業会）

日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局 高柳

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局 高須，大滝，田村，井上 (27名)

4. 配付資料

資料 No.27-1 第 26 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録（案）

資料 No.27-2-1 日本機械学会発電用設備規格委員の技術評価に関する状況，制定規格

資料 No.27-2-2 標準委員会 標準の策定と技術評価に関する状況

資料 No.27-2-3 日本電気協会 原子力規格委員会の活動状況について，策定規格

資料 No.27-3-1 (社)日本原子力学会 地震安全シンポジウム

資料 No.27-3-2 原子力発電所の設計と評価における地震安全の論理

資料 No.27-4 第 1 回柏崎国際原子力耐震安全シンポジウム報告

資料 No.27-5 原子力安全委員会の当面の施策の基本方針について

資料 No.27-6-1 原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要

資料 No.27-6-2 規格類協議会と規格基準連絡会の役割の明確化（運営要綱の比較）

資料 No.27-6-3 規格基準連絡会運営要綱（案）

参考資料-1 原子力関連学協会規格類協議会 名簿

参考資料-2 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱

5.報告事項

(1)常時参加者,オブザーバ変更及び代理出席者の紹介

事務局より,常時参加者及びオブザーバの紹介があり,承認された。

(2)前回議事録確認

事務局より,資料 No.27-1 に基づき,前回議事録(案)(事前に配付しコメントを反映済み)について紹介があり,原案通り承認された。

(3)報告事項

1)各学協会からの報告(規格の整備状況,技術評価/エンドースの状況)

機械学会,原子力学会及び電気協会より,資料 No.27-2-1~資料 No.27-2-3 に基づき,各学協会における規格の整備状況,技術評価/エンドース状況についての報告があった。

2) 中越沖地震を受けた各組織の取り組みについて

a)原子力学会における地震安全への取り組みについて

原子力学会より,資料 No.27-3-1,資料 27-3-2 に基づき,原子力学会における地震安全への取り組みについての説明があった。本日午後,東商ホールにて地震安全シンポジウムを行う予定。

主な質疑・コメントは下記の通り。

- ・シンポジウムは非常によい企画だと思うのだが,今後も定期的実施する予定か。

今回,原子力学会として初めて行うものなので,もし良ければ,違った分野でもこのような試みを実施したい。今回,アンケートを取る予定。

b)第1回柏崎国際原子力耐震安全シンポジウムについて

原子力安全基盤機構より,資料 No.27-4 に基づき,第1回柏崎国際原子力耐震安全シンポジウムについての紹介があった。11/24~26 4つの技術セッションと2つのワークショップで,28カ国,568名の参加の下,柏崎市において開催された。

主な質疑・コメントは下記の通り。

- ・好評なため今後も実施したい。ただし,準備が大変なため,数年後になる見込み。

3)原子力安全委員会の当面の施策の基本方針について

原子力安全委員会より,資料 No.27-5 に基づいて,原子力安全委員会の施策に関する基本方針についての報告があった。

主な質疑・コメントは下記の通り。

- ・重要な論点を網羅的に纏めて頂きありがたい。位置付けに関する記述が少し内向きという気がする。特に「趣旨」において,安全に関する国際的な立ち位置があまり明示されていない。そのため「(5)原子力新規導入国等への協力の充実」などは取って付けた様な印象である。白書ではもう少し分かるのかも知れないが,規格と言う観点では,インターナショナルという次のステップに向けた議論を,3学協会あるいはもう少し広い所で議論していくべきであるが,この辺に

ついて原子力安全委員会ではどのような議論があったか教えてほしい。

この基本方針を作るに当たっては、国際的、世界を見て考えていくという観点からの議論もあったが、結論としては足元の安全ということが第一だということから、国内でどうするのかということに軸足に置いて基本方針を作る形になった。これをまとめていく上では色々と議論があったが、結論としてそうなったということ。内向き過ぎるということについては、貴重なご意見とさせていただきます。

- ・安全研究、人材育成というベースを持ちながら、規格を作っていくという中で、原子力安全委員会が国際的な原子力安全の立場でどのようにリードして行くのか、スタンスを示さないと、規格を作っている所ではインターフェイスが細々した所だけに終わってしまう恐れがある。全体としてどういう方向性を示していくか、耐震の話などが一番良い例だが、規格策定にも関わってくる話でもあるので、もう少し元気のよい、本格的な基本方針を出していただきたい。

- ・良くまとまっているのだが、少し気になる所がある。我が国の原子力プラントも大分年数がたってきているので、耐久性、維持管理を考えると、裕度は時々刻々変わっている気がする。耐久性や維持管理について、少し表向きに言うべきではないかと思う。

高経年化については、40年を過ぎたプラントが2つあり、これからも続々と増えていくことになる。ただし、計画外停止率などを見ると、長い運転経験を積んだプラントのトラブルが多いあるいは計画外停止期間が長いというものではない。理由の1つには、高経年化の対策として、事業者および保安院が相当な対策を打っており、30年経つと次の10年を考えた相当厳しい評価を実施し、40年を過ぎても大丈夫な様にしている。従って、年数を経たプラントに対して安全上の懸念があるとは思わないが、ただし、それに対する説明活動が足りないと考えている。

- ・一般の人は、一般的な建物もそうだと考えているが、時間と劣化が比例関係にあると考える。材料等に対して劣化という表現が使われる場合があるが、許容値より低くなるまでは経年変化という表現の方が一般の方の誤解を受けないと思っている。表現方法については、皆さんとよく相談して行きたい。

- ・方針は分かったが、来年具体的に何か委員会等を立ち上げるという事はあるのか。専門委員会を改組することも含めて、具体的なことを進めていきたい。特に基本原則の明文化が最初になるかと思うが、難しいものが多いため、何時までと具体的には言えない。来年4月以降に、色々な知見等を適用して進めていきたいと考えている。

4)原子力関連学協会規格類協議会 幹事会からの報告

a)規格基準に関するNISA,JNESとの連絡会の設置について

事務局より、資料No.29-6-1～資料No.29-6-3に基づいて、規格基準に関するNISA,JNESとの連絡会の設置についての報告があった。

主な質疑・コメントは下記の通り。

- ・JANTIはオブザーバとして参加したいという希望を持っているので、どういう理由で参加をしたかということ、次回の連絡会において事務局から説明して頂く予定。連絡会で判断を頂ければと思っている。

6.その他

- ・次回の協議会開催日時は，平成 23 年 3 月 17 日(木) 10:00 からとした。

以上